SDGs・脱炭素化の手引き

～製造業（機械工業）におけるファーストステップ～

（出所）国際連合

一般社団法人 日本機械工業連合会 大阪事務所

こんな場合におすすめ！

- ◆ SDGsや脱炭素にどこから取り組むべきかお悩みの方
- ◆ 取引先のSDGs・脱炭素経営を促進したいと考えている方

SDGs・脱炭素に取り組む必要性

SDGs・脱炭素は世界の“共通言語”

【世界中のステークホルダーとつながる巨大なプラットフォーム】

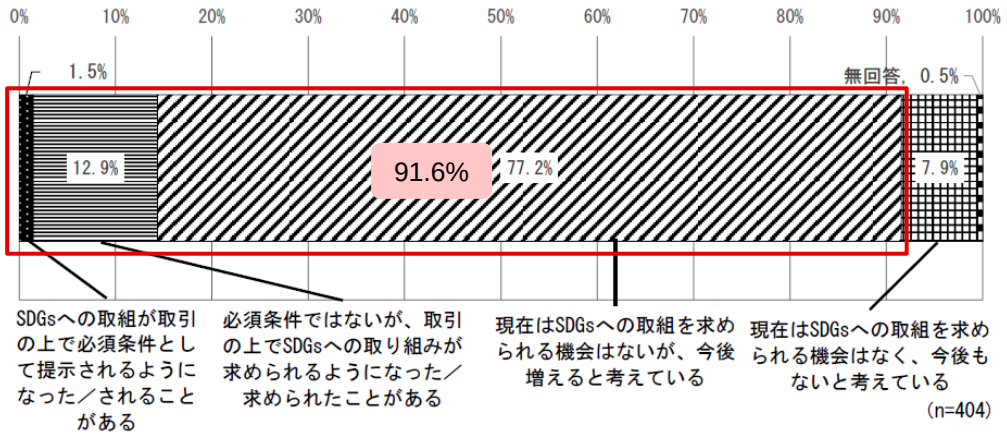
◆ 地球規模で持続可能な開発を求める風潮が高まる中、あらゆる主体に対して、「SDGs※」「脱炭素」を前提とした活動が求められるようになってきています。

◆ グローバル企業・中小企業問わず、こうした「世界の共通言語」を理解して取り入れていくことが重要です。

※SDGs（持続可能な開発目標）とは、2015年の国連サミットにおいて採択された2030年までの国際目標で、地球環境の改善や、経済格差の是正、ジェンダー平等などの観点に基づく17のゴールと169のターゲットから構成されています。

【SDGsが取引条件として用いられる可能性】

日機連のアンケートでは、将来も含めSDGsが取引条件に用いられると考える企業が90%を超えています。



（資料）2021年度日機連アンケート調査結果をもとに作成

事業機会の創出

【“守り”だけではなくビジネス拡大に向けた“攻め”への活用】

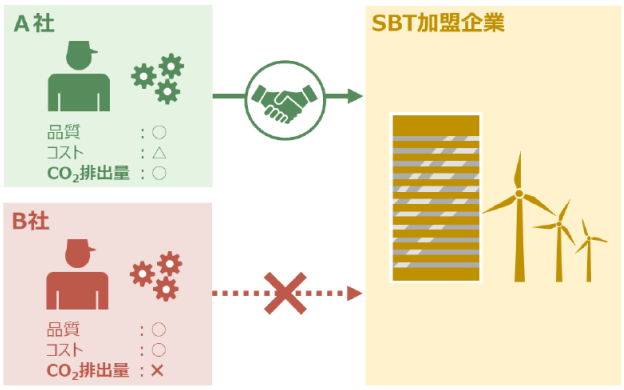
◆ SDGsや脱炭素に取り組まないことがリスクとなりうる一方で、2030年までにSDGsに関わる新たな市場が12兆ドルに達するという予測もあり、取組を通じた巨大なマーケットへのアクセスが期待されます。

企業がSDGsに取り組むメリット

- ✓ 将来のビジネスチャンスの見極め
- ✓ 企業の持続可能性に関わる価値の向上
- ✓ ステークホルダーとの関係の強化、新たな政策展開との同調
- ✓ 社会と市場の安定化
- ✓ 共通言語の使用と目的の共有

（資料）GRI、国連グローバル・コンパクト、WBCSD「SDGs Compass　SDGsの企業行動指針－SDGsを企業はどう活用するか」をもとに作成

脱炭素経営による製品の訴求力向上



（資料）環境省「中小規模事業者のための脱炭素経営ハンドブック」

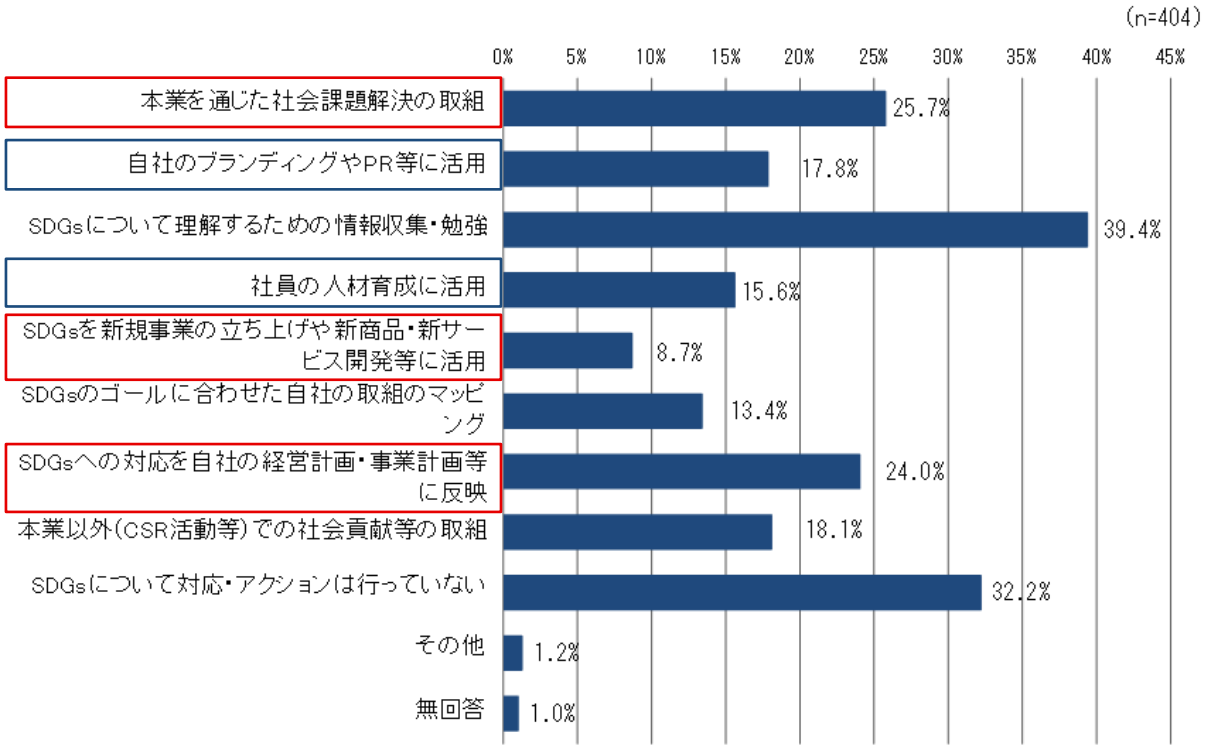
本業で実現するSDGs・脱炭素

- SDGsと聞くと「何か新しいことをはじめなければいけないのではないか？」と捉えられることがありますが、必ずしもそうとは限りません。
- SDGs が企業に求めているのは「事業そのものによる社会課題の解決」への取組です。事業活動による取組は「利益を上げられる持続可能な事業運営（経営）」が前提となります。
  （参考：（独法）中小企業基盤整備機構「中小企業のためのSDGs活用ガイドブック」）
- 日本は創業100年を超える企業が世界で最も多いとされています。SDGsという言葉ができる前から、持続可能な事業が行われてきた結果であると言えます。

データで見る「本業を通じたSDGsへの取組」状況

【SDGsに対応するために、現在取り組んでいる具体的対応・アクション】

- 日機連のアンケート調査では、約1/4の企業が「本業を通じた社会課題解決の取組」「経営計画・事業計画等に反映」と回答しており、「新規事業の立ち上げや新商品・新サービス開発等に活用」といった本業に関する活動も見られます。
- 人材育成やブランディングなど、間接的に本業に資する取組も見られます。



（資料）2021年度日機連アンケート調査結果をもとに作成

【ポイント】

- ✓ SDGsに取り組むにあたって、明確な基準や認証が必要なわけではありません。ISO認証取得のようなコストも不要です。
- ✓ まずは、本業がどのように社会課題解決に結びついているか棚卸して整理することが重要です。

本業で実現するSDGs・脱炭素

本業を通じてSDGs・脱炭素に貢献している事例

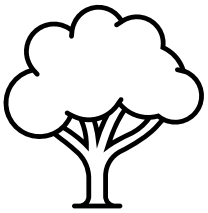
【製造業（機械工業）における取組】

◆ 製造業（機械工業）においても、本業を通じてSDGs・脱炭素に貢献している事例が見られます。

バイオマス発電への取組

環境プラントメーカー

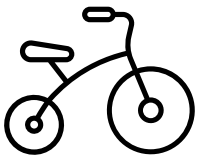
- 環境プラント製造などの事業活動を通じたSDGsへの取組を推進している。
- 再生可能なエネルギー燃料（木質チップ、バガス（サトウキビの搾りかす）、PKS（パーム椰子殻） 等）や廃棄物をもとに発電を行うバイオマス発電プラントも提供している。
- 製品・プラントの高効率化・省エネ化を通じて、脱炭素化に貢献している。



環境、安全・健康に貢献する自転車部品

自転車部品メーカー

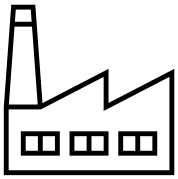
- CO2を排出せず環境に優しい乗り物である「自転車」に係る事業活動そのものがSDGsにつながっている。
- 環境負荷を考慮して、ソーラー充電式のライト販売や、紙のパッケージの採用などを行っている。
- 適正な自転車部品の普及啓発活動等も通じて、安全・健康面のサポートにもつながっている。



エコなポンプ技術を通じた環境貢献

ポンプメーカー

- 消費電力の大きいポンプの高効率化を実現しており、さらなる技術革新により高い省エネ性能を追求することで、CO2削減に寄与している。
- 近年頻発する水害のような、気候変動への対応力が高いポンプの提供を通じて、安心・安全なインフラにも貢献している。



SDGs・脱炭素はどこから着手する？

スタートのきっかけ

【トップダウンとボトムアップ】

◆ トップダウンやボトムアップの２方面から取り組んでいくことが考えられ、双方が効果的に機能する仕組みが重要です。

【経営層・CSR部門等】

■ 展開している事業を棚卸し、社会貢献・SDGsにつながる点を改めて確認することが第一歩となります。

■ 積極的にトップメッセージを発信し、取組を社内外にアピールすることも重要です。

■ 中長期的には、経営方針等への反映を通じて全社的に取組を進める風潮をつくっていくことが求められます。

■ SDGs・脱炭素に取り組むことによるチャンス、あるいは取り組まないことによるリスクを洗い出し、社内で共有していくことも必要です。

【現場レベル】

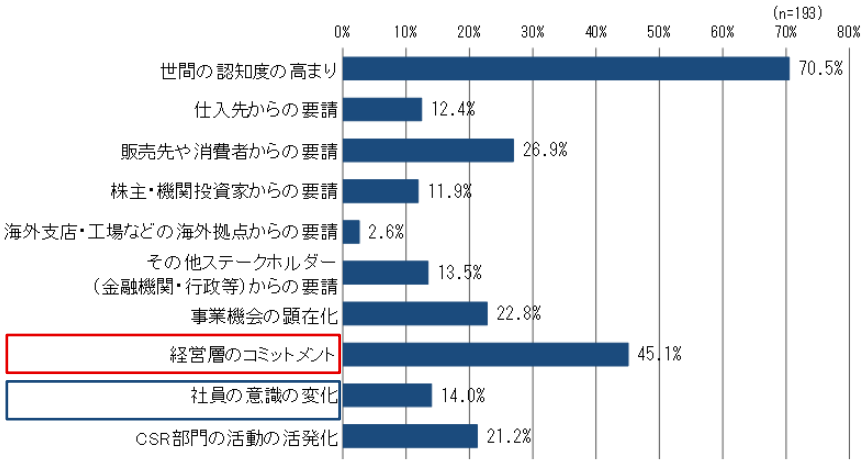
■ SDGs・脱炭素を推進し、継続していくためには、現場の意見を共有していくことが重要です。

■ サプライチェーンの流れも踏まえ、現場の業務がどのように社会貢献やSDGs目標につながっているかを整理・共有していくことで、モチベーション向上に寄与することが期待されます。

■ 事業と社会の関わりに比較的関心が高いとされる若年層の意見を吸い上げていくことも取組推進のきっかけとなります。

コラム～脱炭素に取り組むきっかけ～

【脱炭素への取組の契機や理由】



（資料）2021年度日機連アンケート調査結果をもとに作成

✓ 脱炭素へ取り組むきっかけとしては「世間の認知度の高まり」に次いで「経営層のコミットメント」が大きく、トップダウンで進めている企業も多い状況だと考えられます。

✓ 一方、「社員の意識の変化」のように、ボトムアップにより取組を進めている企業も見られます。

課題の乗り越え方

- ◆ 取組を進めるにあたっては、さまざまな課題が考えられます。
- ◆ 取組の段階毎に、想定される課題とその対処事例を紹介します。
- ◆ あわせて、利用できる支援メニューなども示していますので、ぜひ参考にしながら取り組んでみてください。

準備期

■ 社内での意識の共有

- 企業理念の確認や情報収集などを通じて、社内で取り組む意義を共有する場を設けます。

■ どこから着手するべきか

- まずは、得意分野である「本業」を通じてできることを考えてみましょう。
- 本業を通じた社会貢献が、SDGsにもつながります。

実施期

■ 本業とSDGsはどう結び付けるべきか

- 「SDGsとの紐付き早見表※ 」などを活用してみましょう。

※環境省「すべての企業が持続的に発展するために－持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド－［第２版］」参照

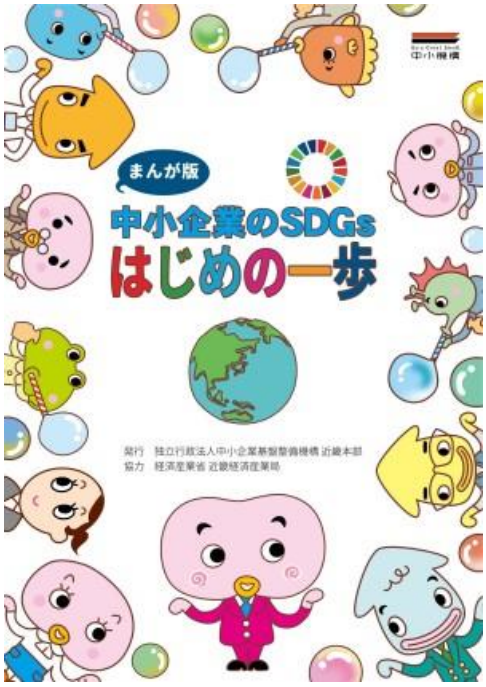
■ 社内に取組をどのように浸透させるか

- 社内教育の教材との紐づけを考えてみましょう。
- 事業活動が社会や環境にどのような貢献をしているかを明示することで、社員のモチベーションにもつながります。

■ 情報発信

- 取組をHPに掲載するなど、まずはできるところから情報発信を行い、社内外に認知してもらうことも大切です。

「まんが版　中小企業のSDGs　はじめの一歩」（中小機構近畿本部）でもSDGsへのファーストステップが分かりやすく紹介されています



（資料）（独法）中小企業基盤整備機構 近畿本部「まんが版 中小企業のSDGs はじめの一歩」

先進企業の声

- ✓ 脱炭素は世界的な潮流であり、取り組まなければサプライチェーンから疎外されてしまう可能性が高いという危機感も持っておく必要があります。
- ✓ すでにSDGs・脱炭素に貢献する取組を行っていても、十分に社会に認知されていない企業が多くもったいないと感じます。取組と併せて発信も意識すると良いでしょう。

課題の乗り越え方

◆ 取組が順調に始められたら、次はさらに推進・拡大する方法を検討します。

◆ 持続可能な取組を行うことが重要です。

拡大期

■ 最新の取組に向けた情報収集

- 高度な取組を進めるにあたっては、先進事例情報やノウハウ獲得も必要です。
- SDGsプラットフォームへの参画や、業界団体の活動などを通じて、近い業種の取組を知ることも有効です。

【日機連の支援（予定）メニュー】

・会員企業の要望を踏まえたセミナーの開催、情報交換の機会の創出、資料提供

・カーボンニュートラルに向けた最新技術や事例紹介の場の提供

■ 新たな機会の創出

- 新規顧客開拓や新製品の開発など、本業の発展につなげる方法を検討してみましょう。
- 人材獲得におけるPR効果など、事業への間接的なメリットも考えてみましょう。
- 新たな機会の創出に向けて、マッチングや製品開発に向けた支援を活用することも考えられます。

近畿経済産業局では、ソーシャルプロダクツの開発やマーケティング実践のためのセミナー・ワークショップも開催しています

■ 資金調達

- 費用負担が必要になる場合もありますが、それを支える支援メニューの活用に向けた情報収集も重要です。

金融機関等によるサステナビリティボンドや、自治体も連携した資金提供（大阪府制度融資「SDG s ビジネス支援資金」）があります

■ 持続可能な仕組みの構築

- 経営戦略等にもSDGsの考え方を取り込み、全社的に、継続的に取り組むことも求められます。

先進企業の声

✓ 現在は価格転嫁が難しくても、今のうちからできることを始めて、将来的な優位性の構築につなげようとしています。

✓ SDGsを通じて本業を見つめ直すことで、新たな事業展開に関する視野の拡大にもつながります。

✓ SDGs・脱炭素への取組について、単発的なイベントや思い付きで終わらせるのではなく、仕組み化することで持続可能なものとすることが重要です 。

参考資料・リンク

【手引き等】

◆ （独法）中小企業基盤整備機構

- まんが版　中小企業のSDGs　はじめの一歩
  https://www.smrj.go.jp/ebook/sdgs-comics-kinki/#page=1
- 中小企業のためのSDGs活用ガイドブック
  https://www.smrj.go.jp/regional_hq/kinki/news/2020/favgos000001dlat-att/a1616374711852.pdf

◆ 環境省

- すべての企業が持続的に発展するために－持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド－［第２版］
  http://www.env.go.jp/policy/SDGsguide-honpen.rev.pdf
- 中小規模事業者のための脱炭素経営ハンドブック－温室効果ガス削減目標を達成するために－
  https://www.env.go.jp/earth/SMEs_handbook.pdf

◆ 経済産業省

- SDGs経営ガイド
  https://www.meti.go.jp/press/2019/05/20190531003/20190531003-1.pdf

◆ GRI 、国連グローバル・コンパクト、 WBCSD

- SDGs Compass SDGs の企業行動指針－SDGs を企業はどう活用するか－
  https://sdgcompass.org/wp-content/uploads/2016/04/SDG_Compass_Japanese.pdf

【支援機関・支援メニュー例】

◆ 近畿経済産業局（https://www.kansai.meti.go.jp/2kokusai/SDGS/kansaisdgs1.html）

- 関西SDGs貢献ビジネスネットワーク、ソーシャルプロダクツ創出支援　等

◆ （独法）中小企業基盤整備機構（https://www.smrj.go.jp/org/policy/sdgs/index.html）

- 中小企業SDGs応援宣言、相談窓口、セミナー・情報提供、ビジネスマッチング　等

◆ JICA関西（https://www.jica.go.jp/kansai/enterprise/priv_partner/index.html）

- 関西SDGsプラットフォーム、SDGs関連事業　等

◆ 大阪府（https://www.pref.osaka.lg.jp/energy/sdgs/index.html）

- 持続可能な開発目標（SDGs）ビジネス創出支援、SDGsビジネス支援資金　等

◆ 大阪商工会議所（https://www.osaka.cci.or.jp/sdgs/）

- SDGs・ESGビジネスプラットフォーム（セミナー、コンサルティング、オープンイノベーション）　等

発行　　2022年４月
発行者　一般社団法人 日本機械工業連合会 大阪事務所
〒530-0047　大阪市北区西天満 4-11-22 阪神神明ビル6階 602号室
TEL：06-6355-4888　FAX：06-6355-4747

本誌は「2021年度関西製造業のSDGs活動推進調査 報告書」（日本機械工業連合会、2022年３月発行）をもとに作成しています。報告書はホームページ（http://www.jmf.or.jp）をご参照ください。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS